

知床ディスタンスキャンペーンの今後の取組みについて

当部会では、知床国立公園・知床世界自然遺産地域の来訪者・利用者に対して、野生動物との適切な距離感や出会った際の行動指針を普及するため、2020年度より知床ディスタンスキャンペーンを実施している。本キャンペーンでは野生動物と適切な距離をとることのほか、野生動物を見ても降車しないことも呼びかけているが、課題となっている撮影等を目的に停車・降車してしまう事例やヒグマ等に不用意に近づく事例は後を絶たず、交通渋滞の発生とともに、深刻な人身事故に繋がるおそれがある状況が続いている。

そのため、今後も継続して本キャンペーンを実施し、知床での行動指針を普及していくこととする。来年度はこれまでの取組みも踏まえ、関係機関と連携した企画を検討する。

これまでの取組経過

▶1年目（2020年度）

「知床ディスタンス！キャンペーン～#ニンゲンもクマも距離感が大切～」と題して、人と野生動物との正しい距離感を普及するための普及啓発の取組を開始。キャンペーンの目玉として、9月19日（土）から22日（火）までの期間において、道の駅ウトロ・シリエトクで体験イベントを開催した。9月21日には斜里警察署が主催する一日署長・交通安全街頭啓発活動とタイアップし、協同で普及啓発グッズの配布やディスタンスカード体験、オリジナルディスタンスカード工作体験などを行った。

▶2年目（2021年度）

「野生動物を見つけても接近しないこと」が知床における行動規範（常識）として認知されることを目指して取組を継続。8月には知床自然センターにて普及啓発イベントを実施し、学習キットを用いてヒグマの生態解説とあわせての啓発とした。さらに、交通安全運動、知床峠開通式、知床オータムバスデイズ（シャトルバス運行）などの地域イベントと連携してキャンペーンを実施し、広く広報に努めた。また、キャンペーン広報のための「ディスタンスマグネットシート」を作成し、関係機関に配布した。

▶3年目（2022年度）

自然公園法の改正に伴う野生動物への餌付け・接近等禁止の普及と連動した取組みとなった。前年に作成したマグネットシートを増刷して部会構成団体に配布し、連携を強固にしたほか、関係機関とともに既存の取組みを継続して実施した。知床サスティナブルウィークではブース出展を行い、これまでの企画に加えヒグマクイズを実施しヒグマに関する理解を深めた。また、車両に対するマナー啓発のため、4コマ漫画で分かりやすく行動指針を示した「ディスタンス菜」を新たに作成し、各所で配布した。加えて、知床への来訪手段に対応した広報を意識して、レンタカー会社へも菜を配布し啓発を試みた。

2023年度実施方針

- ・ ディスタンスカード配布や情報発信、イベントでの普及啓発など、既存の取組は継続して実施する。
- ・ 餌やり禁止キャンペーン (2013年～)、知床バスデイズ (2020年～)、クマ活 (2020年～) など、地域で実施されている関連する取組と、統一感をもった展開とする。
- ・ 積極的に情報収集をしない利用者層にも伝わるよう、観光導線上 (旅マエ、旅ナカ、旅アト) のそれぞれの段階に適切な情報を届けることを意識した啓発とする。
- ・ 知床の課題や取組に対して興味関心の少ない来訪者層 (ライト層) を中心に、共感をもってもらえるような広報とすることが望ましい。
- ・ 啓発の結果、行動に移してくれることが本取組の目指すべきところ。

実施内容 (案)

- 1) ディスタンスカードなど普及啓発物の配布・掲示・上映【継続】
→ディスタンスカード、チラシ、葉の必要な増刷部数の確認が必要。
- 2) Web サイトや SNS での情報発信【継続】
→知床への旅行者が必ず情報収集する雑誌・Web サイトでのさらなる展開も検討。
- 3) 道路 (国道 334 号線および道道知床公園線) 電光掲示板での注意喚起【継続】
→引き続き道路管理者に協力を依頼する。
- 4) 普及企画イベントの実施【継続】
→交通安全キャンペーン等とも連携を図りつつ、過年度の内容をベースに実施。
- 5) 広報のさらなる展開方法や媒体の検討【新規】
→知床への来訪手段 (飛行機、マイカー、レンタカー、バス等) を対象とした広報箇所の開拓が必要。地道な飛び込み営業も想定されるが、人員確保に課題あり。
→取組に対して能動的に情報を得ない観光客へも行動を誘発できるよう、マナー啓発だけではなく、知床の楽しみ方や魅力も合わせて発信する媒体の作成を検討中。

<啓発ターゲットイメージ>

